



浅口清掃センター社員による草刈り回収作業



おかやま山陽高校のサッカー部・空手部皆さんによる刈り草回収作業



浅口市スポーツ少年団の刈草回収作業



「緑のアッケシソウを楽しむ会」見学の皆さん



開花した「白い花」のアッケシソウ

アッケシソウ通信

第14号

令和 6 年10月

「アッケシソウ通信」第十四号に よせて

浅口市長 栗山康彦

アッケシソウ通信第十四号のご発刊、

誠にありがとうございます。皆様方におかれましては、平素より市行政に格別のご理解とご協力を賜わり、厚くお礼申し上げます。「寄島町アッケシソウを守る会」が結成され、今年で二十周年を迎えました。会員の皆様方には、長年にわたる自生地周辺の環境整備を中心に保全活動にご尽力いただき、心より感謝申し上げます。

昨年、アッケシソウの名前の由来となつた地、北海道厚岸町を表敬訪問することができ、厚岸町の大自然とアッケシソウの栽培地を視察しました。アッケシソウの保全に向けて地元の方々がどのような活動を行っているのか、その現場を直接拝見することで、大切にそだてていくためには何が必要か、改めて考える機会となりました。今後も連携を図り、本州唯一の貴重なアッケシソウ自生地を守り、その美しさを皆様に届けるために全力を投じてまいります。

また、新たな試みとして、今年七月に厚岸町と寄島町の小学生がアッケシソウや地域の魅力について互いに理解を深めるオンライン交流が行なわれました。次世代が共に学び、アッケシソウや地元を愛する心を育んでいくことを期待しています。

結びに、貴会の益々のご発展と、これからもアッケシソウが多くの皆様に愛されることを願ひまして、ご挨拶いたします。

令和五年の活動報告

会長 藤沢福夫

昨年はコロナが下火になり、守る会の活動が四年ぶりに正常に戻った年でした。九月の緑のアッケシソウを楽しむ会に寄島小学校五年生のみなさんが参加して、色々な質問をしてくれよく興味を持ってくれているのを感じしました。そして十月中旬のアッケシソウ祭りの開催の前にマスコミが取材に來られ、全国ネットで放送してくれたおかげで、見学者の中に西は福岡、東は東京からの見学者がおり、さすが全国放送の威力を感じました。

十日間で四千五百名の来訪者が見学され、うれしくもあり、説明に忙しく対応させてもらいました。アッケシソウが徐々にあるが、知名度は確実に広がっているのを感じました。

最後にアッケシソウの保護活動の草刈りにいつも浅口清掃センターのみなさん、おかも山陽高校のサッカー部・空手部そして浅口市スポーツ少年団のみなさんの協力に感謝しております。

アッケシソウ命名由来の地 厚岸町におけるアッケシソウ

厚岸町海事記念館

館長 菅原卓己

二年前に厚岸町議会厚生文教常任委員会の同行として、貴市を訪問させていただき、アッケシソウ自生地を見た時の事を今でも鮮明に覚えております。

私の住んでいる厚岸町は、北海道の南部に位置し、太平洋に面した人口約八千五百人のまちです。豊かな海産物や農産に恵まれ、特に牡蠣は名産として昔から知られ、全国でも珍しく一年中出荷が可能です。

私は厚岸町出身なのですが、実は当館に勤務するまで町内のアッケシソウを見ることがなく、過してきました。幼少期に祖父母から「厚岸町の名前がついた植物



厚岸湖岸自生地のアッケシソウ



厚岸町内のアッケシソウ自生地・栽培地等

がある」と聞いたことはありませんが、どこにあるのかは知らず、もちろん実物を見たこともありませんでした。その後、こんなにアッケシソウと関わることになるとはさすがに予想しておりませんでした。アッケシソウは一八九一（明治二十四）年梶山清利が厚岸で採取し、北大の前身である札幌農学校の宮部金吾教授がその名をつけました。採取された場所が町内の「牡蠣島」という場所で、その当時アッケシソウをはじめ塩性植物の群落があり、一九二一（大正一〇）年には、国の天然記念物に指定されております。

しかし、限られた大潮の影響時をのぞいては島が水没する時間が長くなり、植

物群落が消失するに至ったことから、回復も認められないので一九九四（平成六）年に指定解除となりました。

牡蠣島のアッケシソウは消失してしまいましたが、当町におけるアッケシソウの自生地は、厚岸湖岸に存在しており、今日まで確認されております。当町の自生地は、厚岸湖の東奥部に数カ所ありますが、いずれも船でなければ行けないような場所です。簡単に行くことができません。当町では自生地がそのような場所であるため、貴市の自生地を見た時は、とてもうれやましく思いました。

そのため、当町ではアッケシソウを見ていただけように、早くから町内で人工栽培を行なってきました。一九八二（昭和五十七）年には厚岸町郷土館前で栽培が開始され、現在まで継続して行っております。ただ、面積も狭く小規模なことから、大規模栽培を過去に数回試みましたが、いずれも様々な理由で断念しております。

そこで、令和三年度に町内奔渡地区（通称：チカラコタン地区）に、新たに大規模な栽培地を造成し、栽培は今年で三年目を迎えました。初年度こそ数も少なく、不安でいっぱいでしたが、二年目以降は数も増え、無事に生育しております。

当町では、アッケシソウに関する活動は、これまで行政が主導で行なってきたてきております。視察の際、貴会の活動を実際に聞いて、アッケシソウを皆で大切にしていることを強く感じました。今後当町でも町民にもっと興味をもっていただけ

るよう周知・活動を行い、貴会のように皆でアッケシソウを守っていただけるようにしていきたいと考えております。

最後に、アッケシソウ通信に掲載いただく機会を与えていただき、心から感謝申し上げます。

四国のアッケシソウを訪ねて（その三）

顧問 花房 泰志

昨年の夏、四国のアッケシソウ現況調査として、新居浜市垣生（はぶ）地区、阿島地区、三豊市詫間町、坂出市王越地区を訪ねました。

今年度は、去る七月二十六日に、香川県高松市の屋島地区の新浜緑地公園に保護育成されているアッケシソウの生育状況の現場調査の好機に恵まれました。

緑地公園内のアッケシソウの生育地は、近くの海からポンプアップされた海水が全域に流入

するよう穏やかな傾斜をつけた瓢箪型で、周囲を杭と真新しいロープで囲み、大切に保護されていた。



屋島地区アッケシソウ栽培地

このアッケシソウの背丈は、十五cm位で、高いもので三十cm位ありました。

本来、塩田の周辺に自由に繁茂していたものが、昭和二十四年に廃田となり、その絶滅を危惧する人々によって保護育成されて来たものです。

昨年度の瀬戸内海南岸におけるアッケシソウ現地調査に次いで、今年度の現地調査によって、寄島町のアッケシソウ自生地がいよいよ大切なものであるとの認識が一段と深まりました。この寄島町のアッケシソウを大切に保護し、次世代へ確実に伝えて行きたいものです。

視察研修に参加して

秋田 和子

入梅前日の六月八日（土）、会員十四名で高知県立牧野植物園を見学に行きました。「日本の植物分類学の父」牧野富太郎博士の業績を顕彰して、昭和三十三年に高知市の五台山に開園した植物園です。

約八ヘクタールの広大な園地では、三千種類以上の野生植物や園芸植物が四季を彩っています。

そして、園内の各施設では、植物資源に関する様々な研究が熱心に行なわれています。メイン施設の植物研究交流センターでは、牧野博士の想いを継承して、医薬品・化粧品・機能性食品などへの応用を探索研究し社会に還元していくことを目指しています。

二〇二三年に、牧野富太郎とその妻を

モデルにした連続テレビ小説「らんまん」（NHK）が放送されてから全国的に有名となりました。

私たちは、作田先生が用意してくださった「らんまん」に出た四十七の植物一覧表の紙を片手に、同じ名前札の付いた植物を探しながら楽しく散策しました。たくさん綺麗な花を見て、心の中にも花が咲きました。

昼食の土佐料理では、焙りたての鰹のたたきに舌鼓を打ちました。

当日は厳しい暑さも無く、薄曇りの気持ち良い天候に恵まれ、自然の中で植物に出会う喜びを感じることができました。同時に、植物に関する興味・感心も深まり、とても有意義な一日となりました。ありがとうございました。



牧野植物園の入口にて

「企業等賛助会員」

今年度も、アッケシソウを守る会の資金を補うため、企業等賛助会員をお願い致しました。そして三十三の企業・病院・金融機関・商店等から守る会の趣旨に賛同していただきました。会員一同心から感謝と御礼を申し上げます。

(アイウエオ順列記)

アキタ帽子幙	阿西備サービス
荒川電気工業所	阿妹尾溶接
荒川モーターサービス	センコー幙笠岡営業所
池田歯科医院	高山医院
幙一力興業	中央ガス幙
印刷のよこやま	中備化工幙
垣内フォトスタジオ	ドレンシー幙
笠岡信用組合	幙ニッペコ
寄島支店	幙美星ミート
幙カネシン	医療法人 福嶋医院
幙川崎商会	Honda Cars
幙吉川隆泉堂	笠岡
金光病院	幙ミヤケ建設
斎藤教材幙	医療法人 みわ記念病院
JA 晴れの国岡山寄島支店	幙めぐみ
しろやま歯科クリニック	山下農機商会
阿管呉服店	医療法人 よりし
すくすくこどもクリニック	ま中西医院

アッケシソウを守る会

「環境おかやま大賞」

令和五年十二月二十三日、岡山県から「環境おかやま大賞」を受賞しました。これは環境保全推進部門において、県民に対する意識の高揚を計る事を目的に、環境保全活動に自主的かつ積極的に取り組んでいることに贈られたものです。

平成十六年に発足したアッケシソウを守る会は、アッケシソウの生育に適した環境整備による生息範囲の拡大に行政と協力して、立ち入り禁止区域の徹底や木道整備、小学生の教育活動を実施するなど地域の環境保全活動に貢献している事から受賞したものです。



左から栗山市長、藤沢会長、花房顧問、中野教育長

「アッケシソウを守る会・二十年」

事務局長 三宅 哲一

本州唯一のアッケシソウ自生地「旧寄島町天然記念物(現浅口市)」を守る会を立ち上げて、今年で二十年となりました。立上げ当時の守る会の会長は、非常に厳密な方でアッケシソウ周辺に茂っている葎等の雑草を刈る際「足下のアッケシソウを無造作に踏むな、足下に注意して雑草だけを刈り取りなさい。アッケシソウを足で踏んでいる！等々」厳しい指摘、指導により当時の作業員達は緊張しての草刈り作業をしていた。雑草を刈取る道具も、草刈り鎌を使用との事で大変な労力だった」と発足当時の苦労話を聞かせてもらいました。

その先人達のアッケシソウに対する苦労は如何ばかりかと思えます。その様な中で岡山理科大学の星野名誉教授のアッケシソウの保護・生育環境に関する知識・指導のもと、会員の努力によりアッケシソウの生育エリアが拡大してきました。

現在の草刈りは、草刈り機・手押し草刈り機を使用しています。そのアッケシソウの保護活動に、浅口清掃センター社員・おかやま山陽高校の生徒(サッカー部・空手部)、浅口市スポーツ少年団の子ども達が率先して、草刈り、そして刈草回収作業に参加しています。また地元企業・市民の協力、市教育委員会の支援により、守る会の作業員も

大いに励まされ、今日までアッケシソウの生育・保護活動に頑張つて来られた事に感謝しています。

今年の夏は、昨年にも増してより厳しい異常気象(猛暑)となりましたが、守る会はアッケシソウの保護・環境保全等の活動にこれからも頑張つて取り組んで行きたいと思っています。

しかし、作業会員は高齢と体力の低下により退会するなど減少しています。作業会員が一人でも多く入会して頂ける事を心から願っています。

ぜひ、寄島町のふれあい交流館「サンパレア」事務室にお越し頂き、ご入会して頂ける事を切に願います。

編集後記

九月十四日、「緑のアッケシソウを楽しむ会」がC地区で開催されました。僅かな時間でしたが、多数の見学者が訪れて、緑の茎に咲く小さな白い花に、目を凝らして見入っていました。そして、アッケシソウについての色々な事を、守る会の会員に尋ねたり、談笑したりしていました。

また十月十三日(二十二日)、「アッケシソウ祭り」が開催されます。多くの皆さんに訪れて頂き、AB地区・C地区の紅く色づいたアッケシソウをご覧のうえ、周辺の景観とのコントラストに満足していただける事と思えます。

ぜひ、見学に来て下さい。守る会一同お待ちしております。

「藤沢・山神・三宅」